



第23号

令和3年2月1日
高山赤十字病院

病院長よりこんにちは！

拝啓 日脚伸び立春の候、ご健勝にお過ごしのことと存じます。早いもので大寒が過ぎ、あっという間に2月を迎えました。本年も開業医の先生方はじめ関係機関の皆さまには、患者さんのご紹介など相互連携にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

厳寒ではじまった今年はどうのような年になるのでしょうか。新型コロナウイルスの猛威はとどまるところを知らず、新年早々、首都圏で緊急事態宣言が発出され、1月9日に岐阜県は県独自の非常事態宣言を発令しました。このウイルスの感染で重要な点は症状が出る2日前から他人へ感染させるリスクがあり、しかも無症状で経過する人が3分の1以上いて、その人たちが他人に感染させるリスクがあるということです。したがって毎日の体温・体調チェック、マスク着用、手洗い・手指消毒、ソーシャルディスタンスを保ち、特に食事の際には距離を取るなどの基本的な注意を怠らないことが大切です。東京では「黙食にご協力下さい。」と掲示されている飲食店が増えてきたようです。正しい知識をもち、適切な感染対策を行って皆でこの難局を乗り越えたいものです。国内ではすでにワクチン接種の実施が具体化しており、ワクチン接種によってこのウイルスの勢いにブレーキがかかることを期待しています。

新年が皆さまにとって幸多き年となりますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

敬具
病院長 清島 満

【同封文書】

○病院長あいさつ「病院長よりこんにちは！」

緩和ケア内科外来のご案内

・・・P2

医師紹介『先生ってこんな人』産婦人科副部長 加藤 雄一郎 医師・・・P3

○外来担当医表 2月分

○高山赤十字病院診療案内

…患者さんによるご予約の場合に当院への紹介状と共にお渡しいただくと便利です

○『地域連携係よりお知らせ』

- ・診療科外来担当医師一覧(初診)
- ・診察予約申込書(FAX送信票)



◆◆緩和ケア内科外来がスタート！◆◆

当院は高度ながん医療を提供するため望ましいとされる要件を満たし、高度な放射線治療が可能で、がん相談や緩和ケアが充実していることなどが認められ、「地域がん診療連携拠点病院」として指定されています。

R3年2月1日より長年に亘り緩和ケアに携わっている緩和医療専門医・今井奨先生による「緩和ケア内科外来」がスタートします。完全予約制にて、開業医の先生からのご紹介を受け付けます。また、内科以外の診療科からも受け付けています。

緩和ケア内科外来	
開設日時	毎週金曜 14:30～17:00 / 3人
担当医師	緩和医療専門医 今井 奨
対象患者	緩和ケアの介入が必要となる すべてのがん患者 等
対象症状	- がんまたはがん治療に伴う症状 【身体的症状】 痛み・しびれ・吐き気・嘔吐・食欲不振・便秘・下痢・呼吸苦・倦怠感 【精神的症状】 不眠、不安、うつ、せん妄 - 非がん疾患（慢性心不全、HIV/AIDS 等）
受付方法	地域連携係にてご予約受付中 【FAX】0577-32-1165 【TEL】0577-35-1880 (恐れ入りますが、患者さん・ご家族からの直接予約は受け付けておりません)





お気軽に地域連携までお問合せください。

◇◇『先生ってこんな人』シリーズ⑭◇◇

日ごろ紹介状を通じてお世話になっている開業医の先生と「顔の見える関係」を築き、安心して患者さんをご紹介いただけるようスタートした『先生ってこんな人』シリーズ。第14回目は、産婦人科の加藤雄一郎先生です。

産婦人科副部長

かとう ゆういちろう
加藤 雄一郎 医師

鳥取大学・H17年卒



ご出身を教えてください

鳥取県の中央、鳥取市と米子市の間に位置する倉吉市で生まれ、父の転勤と共に米子、山口へ引っ越しました。その後、小学校5年生から高校卒業まで静岡県浜松市で過ごしました。

医師になろうと思ったのは、いつ頃ですか？

医師を目指したのは高校3年生になってからです。父が医師でしたので自然と影響を受けていたと思いますが、学生の頃は医師にあまり興味なく過ごしていました。

ただ、公立高校で理系を選択していたので最終的に医学部を目指しました。

大学生の頃は？

鳥取大学医学部に進学し中部から山陰へ引っ越したのですが、母方の祖父母がおり小さい頃はよく夏休みに帰郷していたのでカルチャーショックはなく、すんなり生活に慣れていったと思います。途中、家族も浜松から米子に引っ越し市内にいましたので、一人暮らしは続けていましたが食事は助かりました(笑)



産婦人科を選択したきっかけは？

初期臨床研修が後半に差し掛かり専門を選ぶ時期になったころ、形成外科医になろうと決めていました。手術が中心の診療科でオペ件数も多いのでやりがいを感じていたためです。初期臨床研修2年間のローテーションでほとんどの診療科を経験しますが、ふと最後に一応産婦人科を覗いてみようと思ったわけです。行ってみると、産婦人科はお産を扱うからか雰囲気は明るく、一方で帝王切開や婦人科系の病気の手術など外科手術をする科ですので、当初から外科系を想定していた私は迷った挙句、産婦人科を選びました。産婦人科医の父には大反対されましたが(笑)

時折、あと何年当直するのかなと気が遠くなることもあります。お産もオペもとてもやりがいがあります。



日本産婦人科学会

専門医・指導医

日本産科婦人科内視鏡学会

腹腔鏡技術認定医・子宮鏡技術認定医

先生はこれまで、鳥取の松江日赤、浜松の聖隷三方原病院、 岐阜市民病院と勤務されたんですね。

初期臨床研修医を終える頃、現在の専門医制度がなかったこともあり医局に入らず、静岡の聖隷三方原病院へ勤務しお産を多く経験しました。松江日赤と聖隷三方原病院を2往復したのですが、その間プライベートでも妻が1人目を妊娠し自分の子どもを自分が取りあげる経験をし、2人目の主治医は父でしたので、父と二人で次男を取り上げるという稀有な経験をしています。医師としてとても幸せなことですが子どもを取り上げたときは、他の患者さんと変わりなく主治医として一人の妊産婦と向き合っている感覚でした。もし子どものオペとなったら父親として到底冷静にいられないと思いますが、妻の出産には不思議と私情はなく、父親とはそんなものなのかもしれません。



産婦人科 副部長

かとう ゆういちろう
加藤 雄一郎 医師

先生は腹腔鏡、子宮鏡の認定医でいらっしゃいますね。

3年目より松江日赤と浜松市にある聖隷三方原病院を2・3年ごとに行き来しオペに携わってきましたが、腰を据えて平成27年から岐阜市民病院の山本和重先生のもとで腹腔鏡手術の経験を積みました。

腹腔鏡下手術は良性卵巢腫瘍、子宮内膜症、子宮筋腫、子宮腺筋症、異所性妊娠、子宮内膜増殖症、初期の子宮体がんが対象となります。開腹術と比べ侵襲が少ないため、術後の痛みが少なく入院期間も短いため患者さんへの負担が少なくすみます。手術創も開腹手術では20cmほど切開しますが、腹腔鏡手術では12mmの切開を1カ所、5mmの切開を2〜3カ所行うのみで美容的にも優れており、術後の癒着が少ないため不妊症のリスクを下げることができます。

当院は産婦人科部長の矢野先生も内視鏡学会の認定医で二人三脚でオペを行っていますので、患者さんには近年の医療機器と技術の発達之恩恵を享受いただければ、これ以上医師冥利に尽きることはありません。

対象の患者さんがいらっしゃればご紹介ください。



はじめての赴任先、飛騨の印象はいかがですか？

まず健康な人が多いという印象です。

あと、みなさん雪に強く多少の積雪でキャンセルされることなく予定どおり来院されることに驚きました。他では雪が降ると一大事ですからね。厳しい自然環境が身体を丈夫にしているのかもしれないですね。

病院は周りのスタッフが仲良く、部門間も垣根が低くコミュニケーションが円滑であるところがいいところだと思います。



地域の先生方へメッセージ

症状のある方や術後不妊治療を希望したいなど早期の施術を希望される場合は、手術日程をできるだけ早めるよう調整いたしますのでご相談ください。

また、当院は日本産科婦人科内視鏡学会による認定研修施設として登録されています。同学会による腹腔鏡技術認定医は矢野部長とわたくし2名が常勤しており、内視鏡手術は良性疾患のほとんどがカバーされますが、手術適応の判断は慎重に行います。

なお、現在岐阜県下で2名、飛騨では唯一の子宮鏡認定医として、子宮内膜ポリープ、粘膜下筋腫、子宮内膜灼術も積極的に行っていますのでぜひご紹介いただければ幸いです。どうぞ宜しくお願いいたします。



暦ではもうすぐ立春ですね！